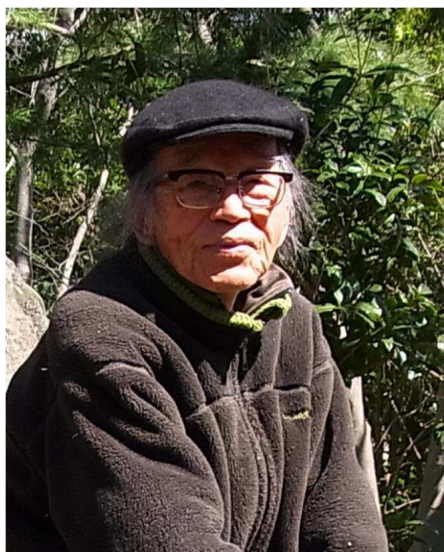


名誉会員，三原義秋博士のご逝去を悼む



<略 歴>

- 1915 1月18日鹿児島県生まれ
- 1932 鹿児島県立第1中学校卒業
- 1935 鹿児島高等農林学校農学科卒業
- 1941 九州帝国大学農学部農学科卒業
- 1943 九州大学農学部助手
- 1945 九州大学大学院特別研究生満期修了
- 1945 九州大学農学部講師
- 1948 農林省技官，農事試験場研究室長
- 1950 農林省農業技術研究所物理統計部気象科長
- 1953 農学博士号授与（雨滴と土壌侵食，九州大学）
- 1965 千葉大学教授 園芸学部
- 1976～1978 千葉大学附属図書館園芸学部分館長
- 1978～1980 千葉大学園芸学部附属農場長
- 1980 千葉大学教授を定年退職
- 1980 鹿児島の故郷にて「千年の森」事業を開始
- 2013 9月26日ご逝去（享年98歳）

<日本農業気象学会における主な役職>

- | | |
|----------------------|-------|
| 1948 | 幹事 |
| 1967～1970, 1971～1972 | 関東支部長 |
| 1971～1972, 1977～1978 | 副会長 |
| 1975～1976 | 会長 |
| 1981～1988 | 顧問 |
| 1983 | 永年功労賞 |
| 1989～2013 | 名誉会員 |

<主な受賞歴など>

- 1952 日本農業気象学会賞「雨滴と土壌侵食に関する研究」
- 1957 日本農学賞，読売農学賞「雨滴と土壌侵食に関する研究」
- 1969 紫綬褒章受章「水稻の生育を促進させる蒸発抑制水温上昇剤の発明」
- 1993 農業試験研究百年記念会賞「温室の環境制御に関する環境工学的研究」
- 2002 南日本文化賞「環境部門」千年の森管理者

<主な著作> 1), 3), 4), 7)は単著, 2), 5), 6)は編著

- 1) 飛火火災について，1948，獅子王社，31ページ

<http://www.agrmet.jp/sk/2013/I-1.pdf>

2013年12月26日 掲載

Copyright 2013, The Society of Agricultural Meteorology
of Japan

- 2) 農業気象 (応用気象大全第3巻), 1961, 1983, 地人書館, 232 ページ
- 3) 水田用水管理の合理化 (農電普及叢書第2集), 1962, 40 ページ
- 4) 施設園芸の気候管理, 1972, 誠文堂新光社, 137 ページ
- 5) Agricultural Meteorology of Japan, Univ. of Tokyo Press, 215 pp.
- 6) 温室設計の基礎と実際, 1980, 養賢堂, 265 ページ
- 7) 「九十歳, 山守の遺言-森の健康と人の健康」, 2005, 南方新社, 136 ページ

主な委員と非常勤講師

日本工業標準調査会臨時委員(1954～1963), 資源調査会専門委員(1956～1963), 気象審議会専門委員(1958), 北海道開拓事業調査計画調査員(1965～1968), 学術審議会専門委員(1979～1981), 非常勤講師 (東京大学農学部(1961～1968), 山形大学講師(1970～1971), 静岡大学農学部講師(1971)), 鹿児島大学(1987～1993)

三原義秋先生は、論理性と感性に抜きんできた科学者であり、研究成果の農林業への応用展開に全力を注ぐ研究者であり、また自身の原体験にもとづく農村・農家・農林業への尽きぬ愛と思い、さらには自身の体験から見出した気象・生態・環境・健康に関わる諸問題の解明・解決・展開への継続的な努力、加えてお酒を酌み交わしながらの談論風発、ときとしての反骨精神的な活動を通じて、研究と弟子育成の成果だけでなく、多面的かつ多大な影響と記憶を周囲の人々に残した。先生からの教えを受けて、その後の人間、社会人、研究者としての生き方を変えた人は少なくない。

「**雨滴と土壌侵食**」先生の初期の研究である「雨滴と土壌侵食」は、当時、社会的に大きな問題であった雨水による土壌侵食・表面土壌流出の原因は、地面における土壌粒子と雨水の単なる流出ではなく、雨滴が土壌表面を激しく叩く運動エネルギーが地面の土壌粒子を飛散させることが第一原因であることを反論の余地がない見事な実験の組み立てにより証明した。雨滴の大きさと最終速度の正確な測定に基づく雨滴の運動エネルギーの算定とそれによる土壌粒子の飛散状況の計測を正確に行い、また土壌表面の上方の網で雨滴を受けて、雨滴の運動エネルギーを消却させると土壌侵食・表面土壌流出が防止されることの実験的証明などにより、当時の雨水による土壌侵食・表面土壌流出に関する防止対策を一新した。この成果により、1952年に37歳で日本農業気象学会賞、1957年に42歳で日本農学賞を受賞した。

「**水田水温の熱収支解析と水温上昇法**」第二次世界大戦後の食糧難時代、稲作における冷害の防止は社会的な問題であった。気温が低くても水田水温が高ければ冷害は軽減されることは経験的に明らかであったので、水田水温の上昇法が課題であった。当時、水田に導入する用水を細長い水路の中で引き回すことにより水温を上昇させようとする慣行法が存在した。これに対して、三原先生が率いる気象科グループは、水田における熱収支解析にもとづいて、水田水温を上昇させるには、第一に、日射エネルギーを可能な限り大きい面積の水面に透過・吸収させ、第二に、水面からの蒸発を抑制することで気化熱損失による水温低下を軽減することが重要であることを明らかにした。この熱収支解析手法は、その後、種々の農園芸場面で展開された熱収支解析とその応用に関する基本となった。

「**単分子膜とその利用**」水田水面からの蒸散を微量の物質で容易に抑制するために単分子膜を水面に展開することを着想し、それを蒸発抑制水温上昇剤 OED として企業の協力を得て開発した。この研究開発により、三原先生は、紫綬褒章「水稻の生育を促進させる蒸発抑制水温上昇剤の発明」を受賞した。OED は、その後、蒸発抑制された人工霧の空中噴霧による防霜に応用され、その成果は世界第 1 級の学術誌である Nature の 212 巻 5062 号に 1966 年に掲載された。さらに、企業と共同開発した OED グリーンはサクランボの裂果防止、野菜の鮮度保持などに応用された。人工霧防霜実験は千葉大学教授になられてからも続けられたので、当時の学生たちは、国立競技場、静岡県、北海道・旭川の野外での冬の夜の防霜実験を体験する貴重な機会を得て、その後の人生の糧となった。

「**温室の環境制御**」千葉大学では、温室熱収支解析にもとづく保温法の開発、TRC (温度反応曲線) トンネルの開発、細霧冷房の開発と設計のための VETH 線図の考案、暖房デグリーアワー算定式の開発などの研究を通じて園芸環境工学発展の基礎を築いた。この間、研究課題の発見には、現場の詳細な観察と実験、農家の体験談の聞き取り、深い科学的思考が必要であることを当時の学生に繰り返し体験させ、高倉直助教授 (当時) らと共に、多くの人材を育てた。そして、「施設園芸の気候管理」(誠文堂新光社)を上梓した。また、定年退官記念出版として「温室設計の基礎と実際」(養賢堂)を編著者として上梓した。後者は今でも

温室関係者にはバイブル的に利用されている。

「千年の森」1980年の定年退官後は、郷里の鹿児島県郡山町の山の頂きに98歳まで住み続け、約10haの山地に世界から取り寄せた種々の木の苗木や種子を植え続けた。この森を「千年の森」と名づけ「永遠に伐らないこと」を条件に郡山町（現在鹿児島市）に寄付した。三原先生は、この山で、通常の数倍の重量の実をつける山栗の木を見出し、それを増殖して周辺の人に配布し、土地の名産品にする努力を続けた。また、優れた特性を有する自生の山桜を育てた。さらには腹式呼吸法の長所に関する研究などを続けた。農業気象学者として特級の人物であったばかりでなく、有形無形の財産を数多く人類に残した三原義秋先生に深く感謝し、ここに、心の底から哀悼の意を表する。

千葉大学名誉教授 古在豊樹

